

入庁後の振り返りと今後の抱負

京築支部 福岡県京築県土整備事務所 河川砂防課砂防海岸係

東田 朋樹

1. はじめに

昨年4月に社会人になり、もうすぐ1年がたとうとしています。この一年は社会人として学ぶことが非常に多く、大変な時期もありましたが成長できた年でも感じています。もうすぐ2年目ということで来年から任せられる仕事量も多くなると思います。その仕事をこなせるかというプレッシャーもありますが、今まで以上に大きな仕事ができるという期待もあります。今回、原稿を書く機会を頂いたので、入庁後の振り返りと今後の抱負を書きたいと思います。

2. 業務について

4月1日、配属は京築県土整備事務所の河川砂防課砂防海岸係と告知されました。直後は京築という場所が分からず、場所を調べてからは驚きが隠せませんでした。福岡県出身とはいえ、京築方面には全く行ったことがなく、とても遠い場所であったからです。砂防海岸係は大学で海岸工学の研究をしていたので少し嬉しかった覚えがあります。

初めて担当した現場は海岸の樋門にたまった土砂の撤去でした。初めての業者の方との打合せ、現場立会、検査など、どの作業をするにしても何も分からず、教えてもらったことをメモに取りながら勉強していました。今ではそんなに難しい工事ではないですが、当時はすべてが難しく、これが本当に一人でできるようになるのかという不安がとてもありました。

急傾斜事業の法面工事では一つの現場に3つの施工業者が入りました。工程の調整をするため3者の間を取り持つというのはなかなか緊張感がありました。私よりも年齢もかなり上で体格もいい方が大勢いる中に一人で行った時はかなり緊張しましたが、業者の方のサポートもあり、乗り越えられたことは良い経験になったと思います。先輩方の話を聞くと現場に行くことが一番成長できるということでしたので、これからは積極的にいきたいと思っています。

3. おわりに

もう後数週間で新採としての一年が終わり、もう後輩が来ます。まだ実感がわきません。まだ自分の仕事で精一杯ですが、少しずつ周りの仕事にも目を向けられるようになりたいです。そして、先輩方の業務の進め方や業者の方とのやり取りの方法などを学んでいきたいです。土木技術者は経験が大事といわれているので、小さな仕事でも積極的に引き受けて成長できるように努力を続けていきたいと思っています。



写真 初めて担当した法面工事（喜多良地区）

概要

わからないことがあれば、先輩や上司の方だけでなく、現場のプロである業者の方からも学んでいきたいと思います。

Photo : 初めて担当した急傾斜の法面工事